

## 目次

統計データの追跡.....	1
統計データの追跡: イントロダクション .....	1
トレースフィールドの使用.....	1
TRACEFIELD コマンドの挿入.....	2
Q-DAS トレースフィールドの挿入.....	13
統計をQ-DASデータベースに送信すること .....	16
現時点での統計をファイルに送付 .....	18
「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用.....	20
統計オプション .....	21
データベースのオプション .....	28



# 統計データの追跡

---

## 統計データの追跡: イン트로ダクション

PC-DMISでは、測定されたパーツの統計データを追跡、及び、管理することができます。すべての寸法またはトレース・フィールドの情報は測定結果またはトレース・フィールド前の `STATS` コマンドの挿入で選択された統計ソフトウェアパッケージに発送されます。代わりに、`XMLSTATS` コマンドを使用すると統計データをテキストベースのXMLファイルへ送信することも可能です。

この章では、主に以下のトピックについて説明します。

- トレースフィールドの使用
- 現時点での統計をファイルに送付
- 「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用
- データをローカルDatapage+のデータベースに発送する
- DataPageStats.Exe で統計データをXMLファイルへ送信
- XMLSTATS/ONで統計データをXMLファイルへ送信
- 支援された方法のテーブル

---

## トレースフィールドの使用

PC- DMIS はトレースフィールドを使用して、測定結果と一緒に統計データベースに追加情報を送信します。トレースフィールドは名前、メッセージおよび値から成ります。

トレースフィールドでは以下の項目を使用できます。

[トレースフィールド]ダイアログボックス - このダイアログボックスを使って、[編集]ウィンドウで`TRACEFIELD`コマンドを挿入できます。このダイアログボックスの詳細については、「トレースフィールドの挿入」を参照してください。

**変数のトレース値を読み込む** - 変数からトレース値を取得するには、`GETTRACEVALUE` ( ) 関数を使用します。変数からトレース値を読み取る方法の

詳細については、「式と変数の使用」章の「文字列関数」の「GETTRACEVALUE ( )」を参照してください。

**Q-DASトレースフィールド** - Q-DASトレースフィールドを挿入し、K-Field 情報をデータベースに送信することができます。Q-DAS トレースフィールドの挿入方法の詳細については、「Q-DASトレースフィールドの挿入」を参照してください。

**レポートヘッダーで使用するトレース** - この項目によってレポートヘッダーに値を表示できます。レポートヘッダーでトレースフィールドを使用する方法の詳細については、「測定結果のレポート」章の「変数の値の表示」における「変数とヘッダー」を参照してください。

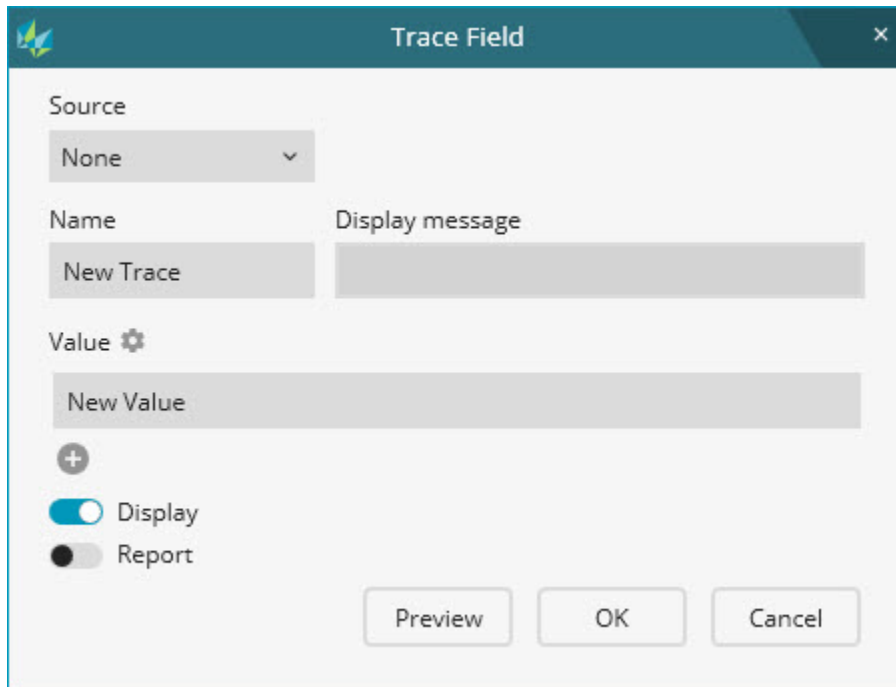
## TRACEFIELD コマンドの挿入

[トレースのフィールド]ダイアログボックスでは、[編集]ウィンドウでTRACEFIELDコマンドを挿入できます。（編集ウィンドウに手動でコマンドを入力することもできます）。

### トレースフィールドダイアログボックス

「挿入|統計コマンド|トレースフィールド」を選択して、トレースフィールドダイアログボックスを開きます。

## トレースフィールドの使用



### トレースフィールドダイアログボックス

**ソース** - この一覧は PC-DMIS がトレースフィールド情報を取得する場所を定義します。

**なし** - このオプションを使用すると、トレースフィールド、表示メッセージおよび値をダイアログボックスに入力できます。

**Q-DAS** - このオプションは Q-DAS 構成ファイルからトレースフィールド情報を読み取ります。このオプションは、測定ルーチンの **STATS/ON, Q-DAS** コマンドの後に **TRACEFIELD** コマンドを挿入した場合にのみ使用できます。Q-DAS 構成ファイルの作成方法の詳細については、Q-DAS Configurator のヘルプファイルを参照してください。

**名前** - このボックスはトレースフィールドの名前を定義します。

「ソース」一覧から「なし」を選択した場合は、ボックスにトレース名を入力します。

ソース一覧から **Q-DAS** を選択すると、名前ボックスはドロップダウンリストになります。一覧から、トレース名を選択します。

ドロップダウン一覧には、Q-DAS 設定ファイルのトレース名が表示されます。（統計/ON Q-DAS ダイアログボックスから異なる設定ファイルを選択できます）。


各トレース名には、Kフィールドの説明に関する情報を提供するツールヒントが表示されます。

**メッセージの表示** - このメッセージは、PC-DMISが実行中にトレースに対して表示するメッセージです。

[ソース]一覧から[なし]を選択すると、ボックスにメッセージを入力します。

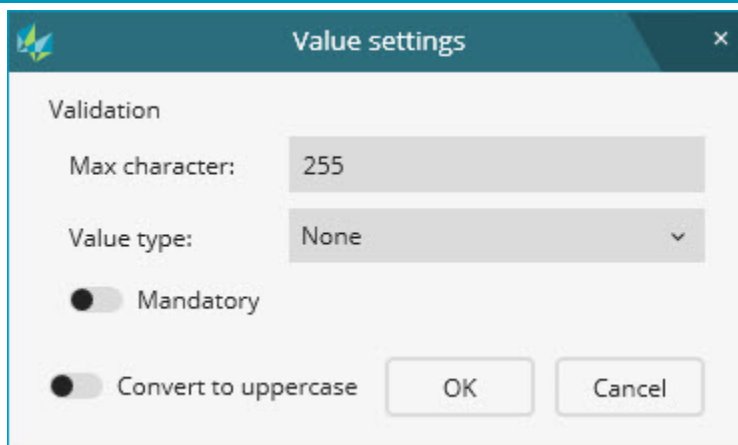
「ソース」一覧から「**Q-DAS**」を選択すると、「メッセージを表示ボックスにQ-DAS設定ファイルのトレース名の説明が表示されます。この説明は編集できません。

**値** - このボックスはトレースフィールドの値を定義します。ユーザは値の設定を定義することができます。

[値の設定]アイコン (  ) をクリックして、[値の設定]ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、値の設定を定義できます。[値]ボックスに値を入力すると、PC-DMISは設定値を検証します。



[ソース]一覧から[**Q-DAS**]を選択すると、[値の設定]ダイアログボックスで設定を定義することはできません。PC-DMISは、設定ファイルの選択に基づいて値を検証します。



The image shows a 'Value settings' dialog box with a title bar containing a logo and a close button. The dialog has a 'Validation' section with the following controls:

- 'Max character:' followed by a text input field containing '255'.
- 'Value type:' followed by a dropdown menu showing 'None'.
- A 'Mandatory' checkbox, which is currently unchecked.
- A 'Convert to uppercase' checkbox, which is currently checked.
- 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom right.

[値の設定] ダイアログボックス

**最大文字** - このオプションは、値の最大文字数を定義します。1から255までの任意の数値を入力できます。デフォルト値は255です。

## トレースフィールドの使用

**値のタイプ** - このオプションは値のタイプを定義します。一覧から、タイプを選択することができます。

**なし** - このタイプでは、**最大文字**ボックスに設定された文字数で任意の値を入力できます。

**整数** - このタイプでは整数を入力できます。

**浮動** - このタイプでは10進数の値を入力できます。

**日付/時刻 (dd.MM.yyyy [/HH:mm:ss])** - この形式では、日付と時刻を次の形式で入力できます。

dd.MM.yyyy/HH:mm:ss or dd.MM.yyyy

この説明

dd - 日付を数字で表示します。1桁の日付には先頭のゼロを使用します。

MM - 月を数字で表示、1桁の月の場合は先頭にゼロを付けます。

yyyy - 年を4桁数字で表示します。

HH - 24時間表示の時間、1桁の時間の場合は先頭にゼロを付けます。  
例えば、午前9時は9:00で表記されます。1 PMは13:00で表記されます。  
。

mm - 分間を表示し、1桁の場合に先頭にゼロを付けます。

ss - 1桁の場合に先頭にゼロを付ける秒間表記です。

**英数字** - このオプションでは、文字や小数点などの文字を入力できます。


**ファイル名** - このタイプを使用すると、コンピュータのオペレーティングシステムに基づいてファイル名を入力できます。




Windows 10オペレーティングシステムでは、ファイル名には、\、/、:、\*、?、"、<、>、|などの文字は使用できません。


**強制** - このスイッチは、作業者が実行中にトレースをスキップできるかどうかを決定します。スイッチをオンにすると、作業者は実行中にトレースをスキップできず、値を入力する必要があります。

**大文字に変換** - このスイッチは、値の文字を大文字に変換します。

単一の値を持つことも、値の複数行を持つこともできます。値の行を追加するには、[追加]ボタンをクリックします 。

- 表示スイッチがオンの場合、PC-DMISは各行に[除去]ボタン (  ) を追加します。

実行中に、最初の行の値は選択された値になります。PC-DMISが実行中にダイアログボックスを表示するときには、一覧から値を変更することができます。それ以外の場合、PC-DMISは選択された値を統計データベースに送信します。

- 表示スイッチがオフの場合、PC-DMISは各行にチェックボックス及び除去ボタン (  ) を追加します。



## トレースフィールドの使用



Value 

John	<input checked="" type="checkbox"/>	
Jack	<input type="checkbox"/>	
Tony	<input type="checkbox"/>	



☐ Display

☒ Report

Preview OK Cancel

選択値として値を設定するには、値の横にあるチェックボックスをオンにします。実行中に、PC-DMISはこの値を選択値として表示します。



実行中にダイアログボックスを非表示にし、選択された値を統計データベースに送信するには、[トレースフィールド]ダイアログボックスの[表示]スイッチをオフにします。

値の行を削除するには、[削除]ボタンをクリックします 。

**表示** - このスイッチは、実行中に[トレースフィールド]ダイアログボックスを表示または非表示にします。[トレースフィールド]ダイアログボックスを非表示にすると、PC-DMISは作業者が値を入力または選択するためのダイアログボックスを表示しません。PC-DMISは現時点の値を統計ソフトウェアに送信します。

**レポート** - このスイッチは測定レポートにおけるトレースの名前とその値を表示または非表示にします。



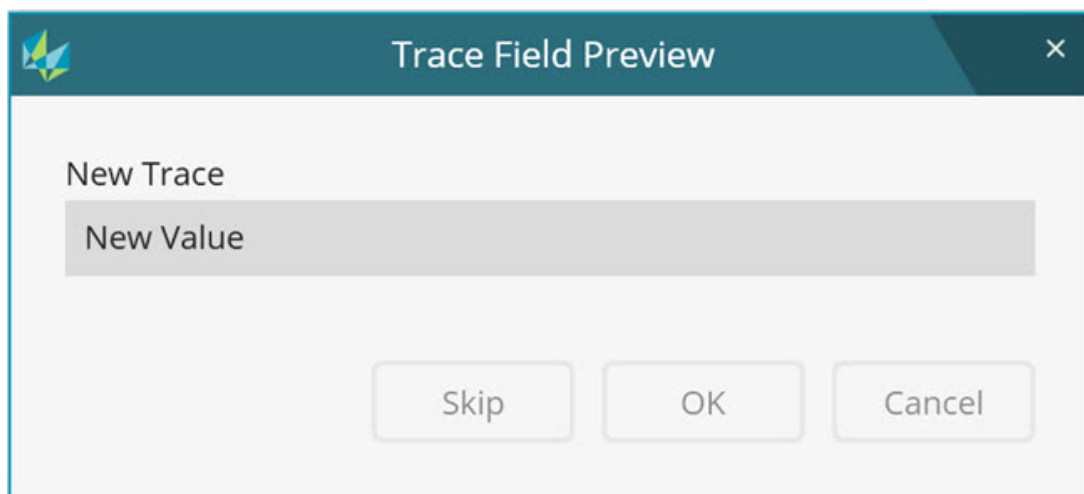
- トレースフィールド名が作業者であり、値が Sam でソースが「なし」である場合、レポートは以下のように表示します

トレースフィールド 作業者 = サム


- トレースフィールド名がK0008であり、値がSamでソースが「Q-DAS」である場合、レポートは以下のように表示します

トレースフィールド ソース = Q-DAS, K0008 = Sam

プレビュー - このボタンを使用すると、[トレースフィールドのプレビュー] ダイアログボックスでトレースフィールドをプレビューできます。



[トレースフィールドプレビュー]ダイアログボックス

プレビューダイアログボックスは、実行中にPC-DMISが表示する実際のトレースフィールドダイアログボックスに似ています。  をクリックして、プレビューを閉じます。

以下の編集ウィンドウでのコード列で `TRACEFIELD` コマンドを確認できます。

## トレースフィールドの使用



TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=  
作業者名を入力 ; 作業者 : Sam

TTRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=バッチ  
番号 / 識別番号 ; K0006 :

### 編集ウィンドウにおけるTRACEFIELDコマンド

編集ウィンドウを使用してトレースフィールドの名前、表示メッセージ、および現在の値を変更することもできます。

TRACEFIELDコマンドの編集ウィンドウコマンド行は以下のようになります

TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=YES,DISPLAY MESSAGE=Type Operator Name ; Operator Name : Sam

A B C D E

TRACEFIELD コマンドを示す例

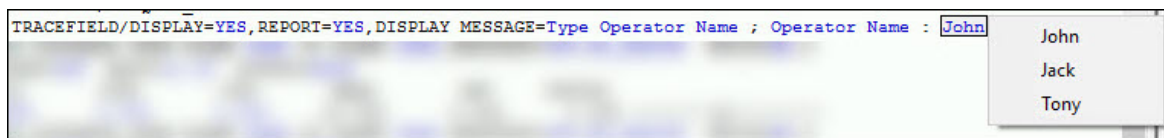
- A. **表示** - このトグルフィールドは、実行中にトレースフィールドダイアログボックスを表示するかどうかを制御します。このフィールドは、YESとNOの間で切り替わります。
- B. **レポート** - このトグルフィールドは測定レポートにおけるトレースの名前とその値を表示するかどうかをコントロールします。このフィールドは、YESとNOの間で切り替わります。
- C. **メッセージの表示** - このフィールドは実行中にトレースフィールドに表示されるメッセージを保持します。
- D. **名前** - このフィールドにはトレースフィールドの名前を保持します。
- E. **値** - このフィールドはトレースフィールドの現時点の値を保持します。

「ソース」を「なし」に設定すると、トレース名を入力または編集したり、メッセージおよび値を表示したりすることができます。

ソースを**Q-DAS**として選択すると、**名前**はドロップダウンリストになります。ドロップダウンリストから、トレース名を選択します。

行ごとに単一の値を持つ場合は、その値を入力または編集できます。

それぞれに独自の値を持つ複数行がある場合は、使用可能な値の値から値を選択できます。



## 変数の使用

次の条件の下で、TRACEFIELDコマンドのフィールドで変数を使用できます：

- TRACEFIELDコマンドの上のルーチンにおいて、あらかじめ使用したい変数を定義する必要があります。
- 編集ウィンドウまたはダイアログボックスのTRACEFIELDコマンドの対応するフィールドに変数名を入力する必要があります。

ダイアログボックスで[ソース]が[なし]に設定されている場合は、すべてのフィールド（名称、メッセージ、または値）に変数を入力できます。「ソース」が「Q-DAS」に設定されている場合は、「値」フィールドにのみ変数を入力できます。また、TRACEFIELDコマンドに単一の値が含まれている場合にのみ、値の変数を入力することもできます。

GETTRACEVALUE() 関数を使用して、測定ルーチン内の TRACEFIELD コマンドからの値を読み込みます。このこととすべての文字列関数については、本ドキュメントの「文字列関数」を参照してください。

ダイアログボックスでソースをなしに設定すると、以下のように TRACEFIELD コマンドを確認できます：

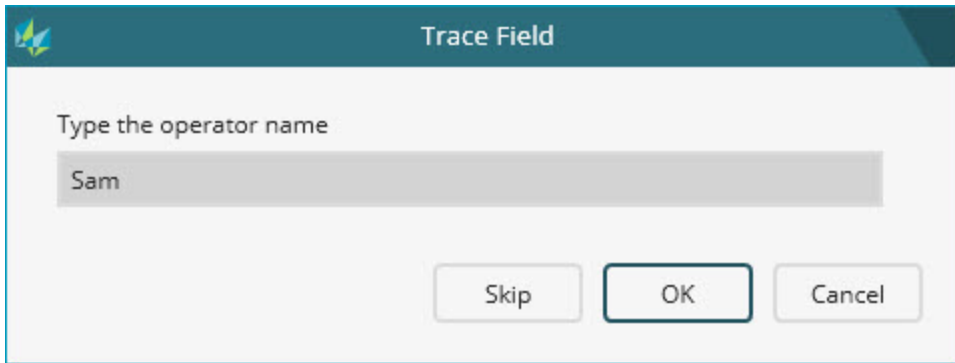


```
ASSIGN/V1="OPERATOR"
ASSIGN/V2="TYPE THE OPERATOR NAME"
ASSIGN/V3="Sam"
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=V2
; V1 : V3
```

## 実行中の[トレースフィールド]ダイアログボックス

単一の値の場合、[トレースフィールド]ダイアログボックスは値を入力または編集するためのボックスが表示されます：

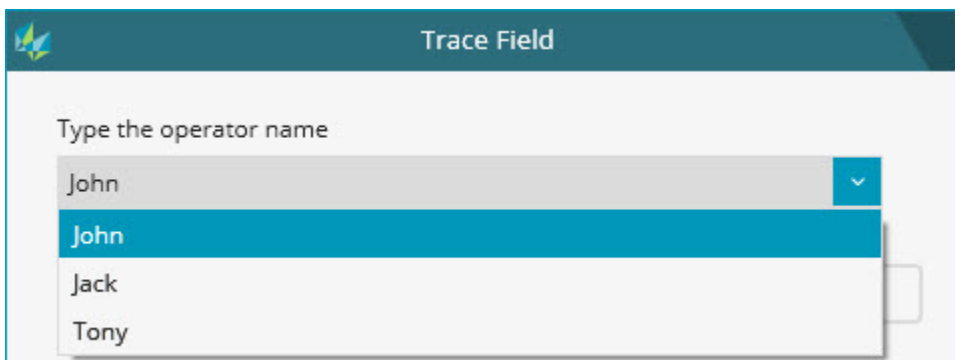
## トレースフィールドの使用



The dialog box titled "Trace Field" has a header with a logo. Below the header, it says "Type the operator name". There is a text input field containing the name "Sam". At the bottom, there are three buttons: "Skip", "OK", and "Cancel".

単一トレースフィールド値での [トレースフィールド] ダイアログボックスの例

複数の値の場合、[トレースフィールド] ダイアログボックスは値を選択するための一覧を表示します。



The dialog box titled "Trace Field" has a header with a logo. Below the header, it says "Type the operator name". There is a list box containing the names "John", "Jack", and "Tony". The name "John" is selected and highlighted in blue. A dropdown arrow is visible on the right side of the list box.

複数トレースフィールド値での [トレースフィールド] ダイアログボックスの例。

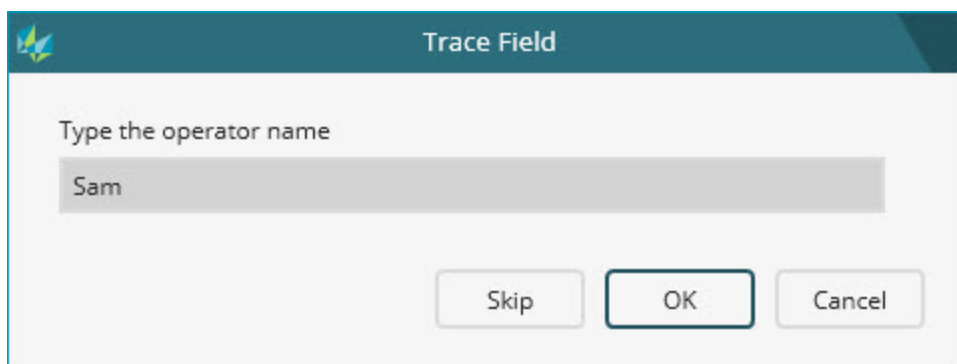
### 実行例 - 単一のTRACEFIELDコマンド

```

LIN1      =FEAT/LINE,CARTESIAN,UNBOUNDED
          THEO/<4.113,0,-6.449>,<1,0,0>
          ACTL/<4.113,0,-6.449>,<1,0,0>
          MEAS/LINE,2,ZPLUS
            HIT/BASIC,NORMAL,<4.113,0,-5.307>,<0,-1,0>,<4.113,0,-5.307>,USE THEO=YES
            HIT/BASIC,NORMAL,<87.972,0,-7.592>,<0,-1,0>,<87.972,0,-7.592>,USE THEO=YES
          ENDMEAS/
          TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Type the operator name ; Operator : Sam
LIN2      =FEAT/LINE,CARTESIAN,UNBOUNDED
          THEO/<0,4.366,-7.211>,<0,1,0>
          ACTL/<0,4.366,-7.211>,<0,1,0>
          MEAS/LINE,2,ZPLUS
            HIT/BASIC,NORMAL,<0,4.366,-7.302>,<-1,0,0>,<0,4.366,-7.302>,USE THEO=YES
            HIT/BASIC,NORMAL,<0,57.394,-7.12>,<-1,0,0>,<0,57.394,-7.12>,USE THEO=YES
          ENDMEAS/
```

単一トレースフィールドコマンドを示す例。

実行中に、PC-DMISは通常のトレースフィールドダイアログボックスで単一のTRACEFIELDコマンドを表示します：



The image shows a 'Trace Field' dialog box. It has a title bar with a logo and the text 'Trace Field'. Inside, there is a label 'Type the operator name' above a text input field containing the name 'Sam'. At the bottom, there are three buttons: 'Skip', 'OK', and 'Cancel'.

単一トレースフィールド値での [トレースフィールド] ダイアログボックスの例

**スキップ** - このボタンはトレースフィールドをスキップし、値を使用しません。トレースフィールドが必須の場合、このボタンは使用できません。

**OK** - このボタンは実行されたトレースフィールドの値を受け入れます。

**キャンセル** - このボタンは、PC-DMIS測定ルーチンの実行をキャンセルします。

### 実行例 - 複数の連続したTRACEFIELDコマンド

```

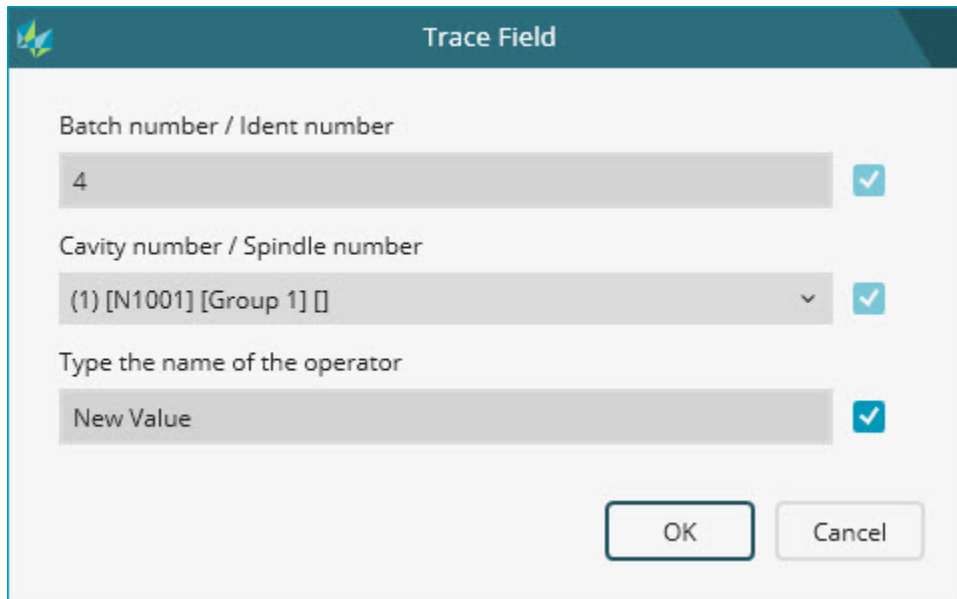
PLN1      =FEAT/PLANE,CARTESIAN,TRIANGLE
          THEO/<42.901,28.561,0>,<0,0,1>
          ACTL/<42.901,28.561,0>,<0,0,1>
          MEAS/PLANE,4
            HIT/BASIC,NORMAL,<77.785,5.533,0>,<0,0,1>,<77.785,5.533,0>,USE THEO=YES
            HIT/BASIC,NORMAL,<80.143,57.7,0>,<0,0,1>,<80.143,57.7,0>,USE THEO=YES
            HIT/BASIC,NORMAL,<9.926,48.571,0>,<0,0,1>,<9.926,48.571,0>,USE THEO=YES
            HIT/BASIC,NORMAL,<3.751,2.439,0>,<0,0,1>,<3.751,2.439,0>,USE THEO=YES
          ENDMEAS/
          TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NC,DISPLAY MESSAGE=Batch Number ; K0006 : 4
          TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NC,DISPLAY MESSAGE=Cavity Number ; K0007 : (1) [N1001] [Group 1]
          TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NC,DISPLAY MESSAGE=Type the name of the operator ; Operator : New Value
COP1      =COP/DATA,TOTAL SIZE=0,REDUCED SIZE=0,
          REF=,
COPFCOLORMAP1=COP/OPER,SURFACE COLORMAP,SHOW PARAMETERS=NC
          SIZE=0,REF=COP1,,
COPFCOLORMAP2=COP/OPER,SURFACE COLORMAP,SHOW PARAMETERS=NC
          SIZE=0,REF=COP1,,

```

連続する3つのTRACEFIELDコマンドを示す例

実行中に、PC-DMISは連続した複数コマンドを組み合わせ、単一の[トレースフィールド]ダイアログボックスに表示します。PC-DMISは各コマンドのダイアログボックスの代わりに下記のような1つのダイアログボックスから情報を収集するため、コマンドの組み合わせによって時間を節約できます

## トレースフィールドの使用



The image shows a 'Trace Field' dialog box with a teal header. It contains three input fields, each with a blue checkmark icon to its right. The first field is labeled 'Batch number / Ident number' and contains the value '4'. The second field is labeled 'Cavity number / Spindle number' and contains '(1) [N1001] [Group 1]'. The third field is labeled 'Type the name of the operator' and contains 'New Value'. At the bottom right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

連続トレースフィールドの複数值での [トレースフィールド] ダイアログボックスの例。

**チェックボックス** - 青いチェックボックスを使用すると、実行中にトレースフィールドを含めるか、またはスキップすることができます。

- チェックボックスをオンにすると、PC-DMIS はこれらのトレースフィールドを実行します。
- チェックボックスをオフにすると、PC-DMIS はこれらのトレースフィールドをスキップし、それらの値を使用しません。トレースフィールドが必須の場合、そのトレースフィールドではチェックボックスを使用できません。

**OK** - これは実行されたトレースフィールドの値を受け入れます。

## Q-DAS トレースフィールドの挿入

**挿入|統計コマンド| Q-DASトレース フィールド**を選択して、Q-DASトレース フィールドを挿入します。このオプションは、「**Value From**」プロパティがQ-DASコンフィギュレータの **K-Field設定のセットアップ**ウィンドウで「**TRACE**」に設定されているKフィールドのトレース フィールドを挿入します。

Q-DASのトレース フィールドは、Q-DAS統計ソフトウェアをサポートする測定ルーチンを作成するのに役立ちます。Q-DASコンフィギュレータの詳細については、Q-DASコンフィギュレータドキュメントを参照してください。

Q-DASトレース・フィールドを挿入する前に、[STATS/ON](#)、[Q-DAS](#)、[DFQ](#)コマンドを作成する必要があります。詳細は、「Q-DASデータベースへの統計の送信」を参照してください。

Q-DASトレース・フィールドを挿入した後、Q-DAS構成ファイル（<name>.qdascfg.xml）を更新する場合は、Q-DASトレース・フィールドを再挿入する必要があります。





これは、編集ウィンドウのQ-DASトレース・フィールドの例です：

```
QDAS_TRACEFIELDS=GROUP/SHOWALLPARAMS=No
```

```
EXECUTION CONTROL=AS MARKED
```

```
ENDGROUP/ID=QDAS_TRACEFIELDS
```

To expand the group, you can change `SHOWALLPARAMS` from No to Yes as shown in this code snippet:

```
QDAS_TRACEFIELDS=GROUP/SHOWALLPARAMS=YES
```

```
EXECUTION CONTROL=AS MARKED
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Batch  
Number ; K0006 :
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Cavity  
Number ; K0007 : (1) [N1001] [Group 1]
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY  
MESSAGE=Operator Name ; K0008 : (1) [P001] [Operator 1]
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Machine  
Number ; K0010 : (1) [M001] [Machine 1]
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Gage  
Number ; K0012 : (1) [PM001] [CMM 1] [CMM Grp. 1]
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Part ID  
Number ; K0014 :
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Order ;  
K0053 :
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Part  
Number ; K1001 :
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY  
MESSAGE=Contract ; K1053 :
```

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Work  
Cycle / Operation Number ; K1086 :
```

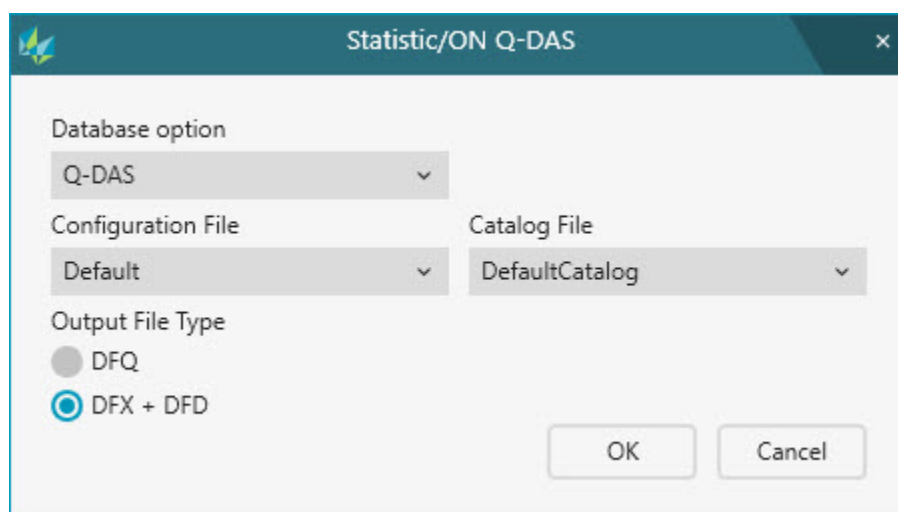
```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Remark
; K1900 :
```

```
ENDGROUP / ID=QDAS_TRACEFIELDS
```

## 統計をQ-DASデータベースに送信すること

[統計/ ON Q-DAS]ダイアログボックスでは、測定データをQ-DAS統計ソフトウェアパッケージに送信できます。

挿入|統計コマンド|統計/ON、Q-DASメニューオプションは統計/ON Q-DASダイアログボックスを開きます。



[統計/ON Q-DAS] ダイアログボックス

**データベースオプション** - このオプションは、Q-DAS統計ソフトウェアが読むことができるファイルを生成します。この一覧はQ-DASのみを表示します。

**設定ファイル** - このファイルは、測定ルーチンの実行中にPC-DMISが収集する必要がある測定データのタイプと追加情報を定義します。一覧から、設定ファイルを選択します。PC-DMISは、Default.Qdascfg.xmlファイルを提供します。

Q-DAS Configuratorを使用して設定ファイルを作成することができます。Q-DAS Configuratorの詳細については、Q-DAS Configuratorのヘルプファイルを参照してください。

このフォルダには、設定ファイルがあります：

統計をQ-DASデータベースに送信すること

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Q-DAS\Settings

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。

**カタログファイル** - Q-DAS統計ソフトウェアはカタログファイルを使用して、製造環境に関連する情報を定義します。このファイルは、Kフィールドが参照できる管理データやその他のデータを含むテキストファイルです。ユーザーの組織は、Q-DASソフトウェアの要件に従ってこのカタログを作成し、使用するために提供します。このファイルは場所によって異なります。カタログファイルの詳細については、Q-DAS Configuratorのヘルプファイルを参照してください。リストからカタログファイルを選択します。PC-DMISはDefaultCatalog.dfdファイルを提供します。

このフォルダにカタログファイルがあります：

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Q-DAS\Catalogs

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。



Q-DAS Configuratorは、各測定ルーチン用のQ-DASデータファイルを作成します。Q-DASデータファイルには、Q-DAS統計ソフトウェアが出力ファイルを生成するために必要な情報が含まれています。Q-DAS Configuratorは、Q-DASデータファイルを測定ルーチンと同じフォルダに保存します。ファイル名は次の形式を持っています：

**<測定ルーチン名>.QdasData.xml**

<測定ルーチン名>は、PC-DMIS測定ルーチンの名前です。

現在の測定ルーチン用のQdasData.xmlファイルが存在する場合、**設定ファイルおよびカタログファイルの一覧**にはQdasData.xmlファイルのファイル名が表示されます。このダイアログボックスでファイル名を変更することはできません。

異なる設定ファイル、カタログファイル、またはその両方を選択するには、Q-DAS Configuratorを使用する必要があります。Q-DAS Configuratorの詳細については、Q-DAS Configuratorのヘルプファイルを参照してください。

**出力ファイルタイプ** - Q-DAS統計ソフトウェアは、Q-DAS ASCII転送フォーマットをサポートしています。このオプションは、Q-DASがサポートする形式を一覧表示します：

**DFQ** - このオプションは出力を.dfqファイルに送信します。

**DFX + DFD** - このオプションは.dfd及び.dfxファイルに出力を送信します。

必要な出力形式を選択します。

**OK** - このボタンは、`STATS/ON,Q-DAS,DFX+DFD`または`STATS/ON,Q-DAS,DFQ`コマンドを編集ウィンドウに挿入します。

**キャンセル** - このボタンは変更を破棄し、ダイアログボックスを閉じます。

`STATS/ON,Q-DAS,DFX+DFD`または`STATS/ON,Q-DAS,DFQ` コマンドを編集ウィンドウに挿入しません。

---

## 現時点での統計をファイルに送付

[操作 | 現在のステータスをファイルに送信する] メニューオプションは、下記で説明するようにユーザーが使用する統計パッケージによって異なります。

`STATS/ON` コマンドが DataPage または DataPage+ を使用する場合、PC-DMIS は [統計値の保存] ダイアログボックスを表示して、統計データを保存するかどうか尋ねます。

- [いいえ] をクリックして操作を取り消します。データは保存されません。
- [はい] をクリックすると、PC-DMIS は [更新] ダイアログボックスを表示して、DataPage+ データベースを更新するかどうかを尋ねます。
- この二番目のダイアログボックスで [はい] をクリックすると、PC-DMIS はデータベースを更新します。
- [いいえ] を選択すると下記のようになります：
  - `STAT/ON` コマンドが DataPage を使用する場合、PC-DMIS は "XSTAT11.tmp" ファイルを作成します。
  - `STAT/ON` コマンドが DataPage+ を使用する場合、PC-DMIS は XML ファイルを作成します。

`STATS/ON` コマンドが Q-DAS を使用する場合、PC-DMIS は [統計値の保存] ダイアログボックスを表示して、統計データを保存するかどうかを確認します。

現在の測定ルーチンがユーザーが実行した最後の測定ルーチンであった場合、PC-DMIS は DFQ/DFX+DFD ファイルを作成します。そうでない場合、この測定ルーチン

## 現時点での統計をファイルに送付

向きの正しいデータセットがないことがあります。[STATS | ON](#) コマンドが Q-DAS に設定されており、データセットが保存前に正しいことを確認する場合、測定ルーチンを実行して、[操作 | 現在の統計データをファイルに送信する] メニューオプションを選択します。ファイルは以下の場所にあります："C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\Q-DAS\Results" フォルダー。測定ルーチンをまだ実行していない場合、PC-DMIS は DFQ/DFX+DFD ファイルを作成しません。

統計データの Q-DAS データベースへの送信について詳しくは、PC-DMIS Core ドキュメントの「統計データを Q-DAS データベースに送信する」トピックを参照してください。

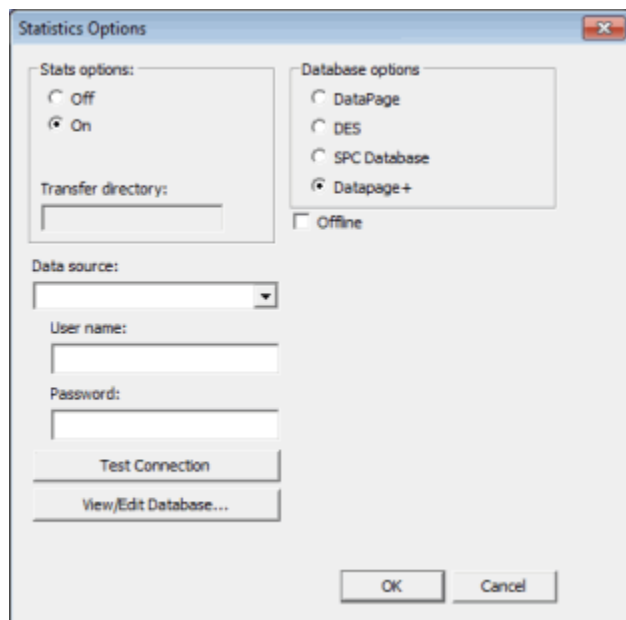


XSTATS11.tmp ファイルを Q-DAS で使用する場合、必ず最初に測定ルーチンを実行して、それが生成された Q-DAS データを .tmp ファイルに送信するようにしてください。

現在の統計データをファイルに送信するを選択すると、PC-DMIS は [STATS/ON](#) コマンドに続く、すべての測定結果およびトレースフィールドを選択されたデータベースに直ちに送信します。データベースが登録され、[STATS/ON](#) コマンドがマーク済みの場合にのみ、統計がデータベースに送信されます。[STATS/ON](#) コマンドがデータページに設定されると、PC-DMIS は統計データの XSTATS11.tmp ファイルへの送信も行います。

PC-DMIS ファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

## 「統計オプション」ダイアログボックスの使用



統計オプション ダイアログ ボックス

**挿入 | 統計コマンド | 統計** メニューオプションを選択すると **統計オプション** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用すると、PC-DMISにどのように測定結果を取り扱うか伝えることができます。この情報を指定の統計ソフトウェアパッケージデータベースに送信するよう伝えることができます。

**統計オプション**で、**オン**を選択して**OK**をクリックすると、**STATS/ON**コマンドが測定ルーチンに挿入されます。**STATS/ON**が希望の寸法またはトレース・フィールドコマンドの前に挿入されると、その測定結果またはトレース・フィールド情報が選択した統計ソフトウェアパッケージに送信されます。



ダイアログボックスの変更は、データベースのオプションエリアから選択されたデータベースオプションに応じます。ダイアログボックスの変更エリアについては、[データベースのオプション](#)サブトピックの説明された項目を参照してください。

## 統計オプション

データベースのオプション エリアは常に統計オプション ダイアログボックスで利用可能です。データベースのオプション エリアで、以下のコマンドを使用できます。

- オフ - 統計収集をオフ
- オン - 統計収集をオン
- 転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送
- 更新 - データベースを更新
- 記録 - 指定のデータを記録

### オフ - 統計情報をオフ (STATS/OFF)



オフオプションを選択すると、[STATS/OFF](#) コマンドを挿入することで測定ルーチンから送られた統計情報が停止します。統計オンオプションを選択するまで、寸法とトレースフィールドコマンドはデータベースへの統計情報を発送しません。

### オン - 統計収集をオン (STATS/ON)



オンオプションを選ぶと、統計情報が測定ルーチンからデータベースへ送付されます。統計送付がオンの状態では、データを統計ファイルに送付し、その情報を異なるディレクトリに転送し、または、その情報をデータベース アプリケーション内に保存することが可能です。

すべての[STATS/ON](#) コマンドを従う測定結果と次の[STATS/OFF](#) コマンドの前は統計ファイルまたは次の [STATS/TRANSFER](#)、[STATS/UPDATE](#)の実行上のデータベース、また

は測定ルーチンの最後コマンドに発送されます。**STATS/ON**コマンドで、同じ測定ルーチン内でも、出力情報を複数のデータベースに発送します。

少なくともひとつの**STATS/ON**コマンドを含む、測定ルーチンの各実行に当たって、PC-DMISは、いずれかの統計データベース ディレクトリに、出力内容を送付するか否かを尋ねます。**セットアップ オプション**ダイアログ ボックス (**編集 | 優先設定 | セットアップ**)にある**寸法**タブからアクセスできる**データベース常時更新チェック** ボックスの選択によって、このプロンプトを回避することが可能です。この**[寸法]** タブに関する詳細は、「優先設定」章の「設定オプション: 寸法タブ」を参照してください。



**データベースオプション**エリアから**DataPage**を選択した場合、PC-DMIS は自動的に実行可能なDPUPDATE.exeを呼び出してまたXSTATS11.tmpファイルのデータを任意の選択したDataPageのディレクトリに挿入します。DPUPDATE.exeが働くためにユーザが管理者権限でPC- DMISを実行する必要があります。

同様に**DataPage+**オプションを選択するとDPPLUSUPDATE.exeが呼び出され、その後DataImporterが呼び出されてXMLファイルをDataPage+データベースにインポートします。

ループの内側で統計をオンにすると、XSTATS11.tmpテキストファイルやXMLファイルなど、生成された統計ファイルに含まれる測定結果と要素IDの出力が若干異なります。

PC-DMISファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

**STATS/ON**コマンドブロック用の編集ウィンドウのコマンドラインは、指定したデータベースの種類によって変化します。すべての**STATS/ON**コマンドは、最初の行は以下のように開始します。

```
STATS/ON, database option;
```

**database option=** このトグルフィールドは発送される統計情報のデータベースのタイプを示します。このフィールドはDATAPAGE、DES、SPC\_DATABASEまたはDATAPAGE+のいずれかの値が可能です。ここで選択した内容に応じて、残りのコマンドが変わります。

DATAPAGE オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。



## 「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用



```
STATS/ON,DATAPAGE,$  
  
DIRECTORY=directory_name,$  
  
READ=n1,WRITE=n2,MEPPAGES=n3,variable_name1,variable_name  
2,$  
  
STATS/END
```

SPC オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。



```
STATS/ON,SPC_DATABASE,database_name
```

DES オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。



```
STATS/ON,DES,DIRECTORY=directory
```

DATAPAGE+ オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。



```
STATS/ON,DATAPAGE+,database_name,OFFLINE=y/n  
  
RECORD=data_list
```

**DIRECTORY=directory\_name** データベースオプションが DATAPAGE または DES の場合、**directory\_name** の値は統計データの送り先であるデータベースディレクトリを示す文字列でなくてはなりません。複数のデータベースディレクトリがある場合、この DIRECTORY フィールドはディレクトリが追加されるたびに繰り返されます。その一つ一つが有効なデータベースディレクトリでなくてはなりません。

**database\_name** = データベースオプションが SPC\_DATABASE または DATAPAGE+ である場合は、この文字列はデータベースのデータソース名(DSN)を示します。SPC データベースでは、この名前はコンピュータのコントロールパネルの ODBC オプションで作成することができます。DATAPAGE+ データベースでは、DNS は通常 DATAPAGE+ 内部で作成されます。DSN は有効な SPC のデータベースにリンクするよう作成しなくてはなりません。

**READ=n1** これは読み取りロックを示します。**n1** は読み取り中にPC-DMISがデータベース アクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、10秒です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

**WRITE=n2** これは書き込みロックを示します。**n2** は書き込み中にPC-DMISがデータベースアクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、20秒です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

**MEMPAGES=n3** これはメモリーページを示します。**n3** はデータベースを開く時、データベーステーブル用に4Kのメモリーページを保持することを示します。このオプションはパフォーマンスに影響します。入力できる最小値は4（また、デフォルト）です。このフィールドはDataPageデータベースオプションのみに使用されます。

**variable\_name1 =** このフィールドは変数名の設定を示します。DIMENSION\_NAMEに設定されている場合、測定結果の名前が表示されます。FEATURE-NAME に設定されている場合、要素IDが表示されます。このフィールドはDataPageデータベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

**variable\_name2 =** このフィールドはコントロールの計算を使用するかどうかを決定します。CONTROLCALC ONに設定すると、制御計算が使用されます。CONTROLCALC OFF に設定するとコントロールの計算は使用されません。

**OFFLINE =** この はいいいえ フィールドはオフラインオプションを使用するかどうかを決定します。「はい」に設定すると、**RECORD=**フィールドが現れ、XMLファイルに書き込む情報を指定できます。このフィールドはDataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

**RECORD=data\_list** これはXMLファイルに記録するデータの内容を決定します。**data\_list** の値はALL（すべてのデータがXMLファイルに送られることを意味）、またはカンマ区切りの項目のリストのいずれかです。例えば、測定結果とヒットの情報のみを記録する必要がある場合、DIMENSION, HITを選択します。このフィールドはDataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用され、**OFFLINE=はい**の場合のみに利用可能です。

## STATS/ONコマンドを支援するPC-DMISとDataPage+ バージョン

支援されている方法とバージョンについては、「支援される方法のテーブル」を参照してください。

## DataPage+ XML の取り扱い

DataPage+ データベース名、およびOFFLINE=YESにSTATS/ONを使用する場合、生成される XML は実行終了直後 C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\ ディレクトリに作成されます。このディレクトリはバージョンに依存しません。これにはトランザクションの日付および時間、DSN、あるいはその他の情報が含まれます。オフラインチェックボックスと共に記録オプションを使用すると、その他の情報を制限することができます。

いったんファイルが作成されたら、そのファイルを扱うためにdpplusupdate.exe はそのファイルを %AppData%/DataPage+/ForStatsFile ディレクトリに移動します。実行中、このDataImporter ツールはそのディレクトリを検索しデータをDataPage+に自動的にインポートします。DataImporterの使用については、Datapage+ と共にインストールされた文書を参照してください。

XML の名前はそれが生成された時点での現地時間に基づいています。以下の命名形式を使用します。

<YYYY><MM><dd><hh><mm><ss>.xml

<YYYY> - 年を4桁で表示

<MM> - 月を2桁で表示

<dd> - その月の日にちを2桁で表示

<hh> - 時間を24時間形式で表示

<mm> - 分

<ss> - 秒

## 転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送 (STATS/TRANSFER)



転送 オプションで、測定ルーチンからの統計情報はSTATS/TRANSFER コマンドの実行上の指定ディレクトリに転送されます。

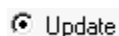


このオプションは**DataPage+**の自動アップデートオプションまたは Datapage+ データベースオプションのレコードオプションから生成される XML ファイルを用いる場合に特に便利です。「レコード」を参照してください。

別のディレクトリに統計情報を転送するには：

1. **転送** オプションをクリックしてください。
2. **転送ディレクトリ** ボックスに、ディレクトリのディレクトリパスを統計情報ファイルを転送したいところへ入力します。

## 更新 - データベースを更新 (STATS/UPDATE)

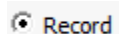


**更新** オプションは **STATS/UPDATE** PC-DMISにコマンドが実行するたびに統計データベースを更新するのを指示するコマンドを作成します。統計ソフトウェア アプリケーションがインストールされ、作動している必要があります。



**設定オプション**ダイアログボックスの**測定結果**タブからの**データベース常時更新** チェックボックスを使用すると、ユーザーはSTATS ON /コマンドから成る測定プログラム実行終了時にPC-DMISが表示する「すぐにデータベースを更新しますか？」**メッセージ**を回避することができます。「優先設定」章の「設定オプション：寸法タブ」を参照してください。

## 記録 - 特定データの記録 (STATS/RECORD)



オリジナルの **Datapage+** 出力は多くの情報をデータベースに送信します。これは、若干の測定ルーチンの実行を停滞させるかもしれません。若干の情報は、要求されさえしないかもしれません。

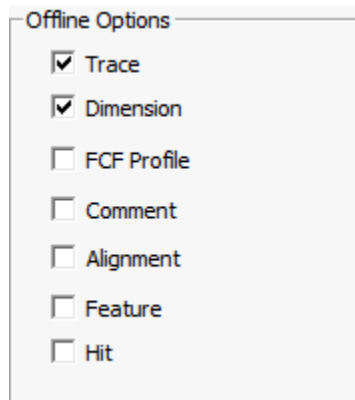
**統計オプション**エリアの**記録**オプションを使用すると、データ出力を非常に柔軟かつ高速に行うことができます。これを機能させるには STATS/ON コマンドに続く必要があります。その後、以下を実行します。

## 「統計オプション」ダイアログボックスの使用

- これは、dpplusupdate.exe ユーティリティをバックグラウンドで実行することによってデータを送信します。これは、Datapage+ データベースへのアクティブな接続が使用されないことを意味します。実際は、定義されたデータベースを持つ必要は全くありません。
- データを XML ファイルに書き込みます。
- **STATS/ON** または **STATS/RECORD** コマンドを編集してソフトウェアが XML ファイルに出力するデータを含めることで、目的のデータを取得するよう選択的にターゲットに含めることができます。これは、いかに説明する**オフライン**チェックボックスおよび**オフラインオプション**エリアを使用することで実行できます。


### 記録およびオフラインチェックボックスの動作方法

オフラインチェックボックスがマークされると、オフラインオプションエリアが編集可能になり、XML出力に記録する特定項目を選択することができます。



特に**記録**オプションを選択しない場合でも**オフライン**がマークされている場合、**OK**をクリックすると、編集ウィンドウの**STATS/ON**コマンドは**記録**コマンドに変更され、選択されたオプションを含みます。

例えば、**オフライン**をマークし**追跡**と**測定結果**を選択した場合、コマンドは以下のようになります。



```
STATS/ON,DATAPAGE+,DATAPAGE_PLUS,OFFLINE=YES  
RECORD=DIMENSION,TRACE,
```

これは、実行中、何か別のものを送信するよう指示する**RECORD**コマンドに当たるまで、または**STATS/OFF**コマンドに到達するまでは、PC-DMISは**測定結果**および**追跡情報**のみをXMLファイルに送信することを意味します。

ここで、ルーチンの後半で**記録オプション**を選択し、**ヒットオプション**も同様に含めたいと仮定します。コマンドは以下のようになります。

**STATS/RECORD, DIMENSION, TRACE, HIT**

このコマンドは**STATS/ON**コマンドの後に続く限り、XMLファイルに送るデータを制限し、追跡、測定結果、およびヒットの情報を含めます。

## データベースのオプション

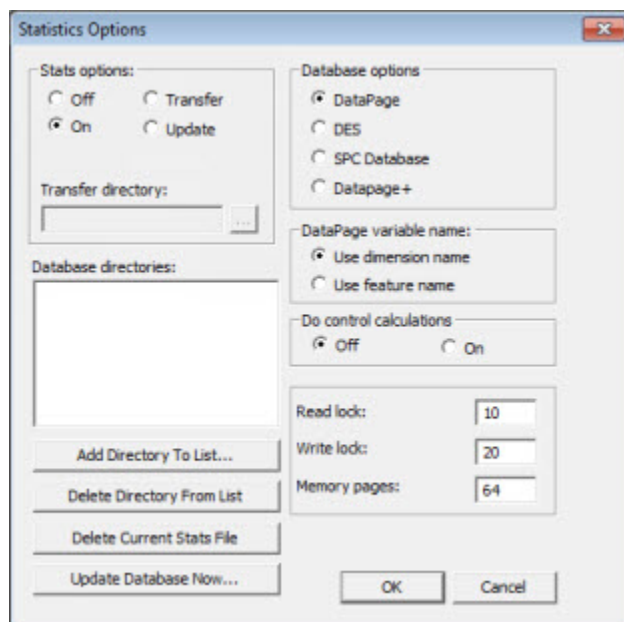
データベースオプション エリアのオプションでは、以下の統計ソフトウェアパッケージのどれが測定情報を受け取るかを決定できます。

- DataPage
- DES
- SPCデータベース
- DataPage+

オプションを選択すると、**統計オプションダイアログ** ボックスがそのオプションに必要な特定情報を表示するよう変わります。

**DataPage+**のオプションはデフォルトのオプションです。

## DataPageオプション

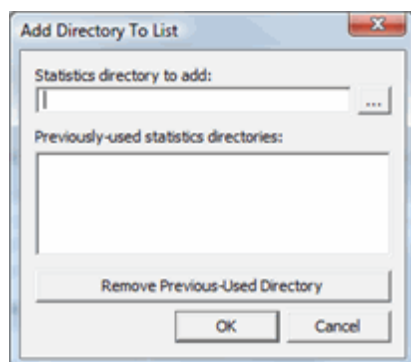


[統計オプション] ダイアログボックス - [DataPage] オプション

**Datapage** オプションが選択されると**統計オプション**ダイアログボックスが、以下の項目を付け加えるために変わります:

**データベース ディレクトリ** - この一覧は、データベース アプリケーションが存在する様々なディレクトリを表示します。この一覧にディレクトリを追加、または、削除することが可能です。[STATS/ON](#) コマンドひとつにつき最高で10個のディレクトリを選択し、それらに統計情報を送ることができます。

**ディレクトリをリストに追加** - DataPageで使用したいデータベースを含むディレクトリを指定できる、**ディレクトリをリストに追加**ダイアログボックスを表示します:



ディレクトリを一覧に追加

このダイアログ ボックスが表示された場合、**[追加する統計データのディレクトリ]** ボックスにデータベースを含むパスを入力でき、または [...] ボタンをクリックして ディレクトリを参照します。次に**[OK]**をクリックして、**[データベース ディレクトリ]** リストに指定されたディレクトリを添加します。

**以前使用したディレクトリを削除** を利用して以前に定義されたディレクトリを削除します

**リストからディレクトリを削除** - データベースディレクトリリストから選択したディレクトリを削除します。

**現在の統計ファイルを削除** - xstats11.tmp ファイルを削除します。

PC-DMISファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

**今すぐデータベースを更新** - 現在のデータベースから取得した統計データでデータベースアプリケーションを更新します。このボタンをクリックして、スクリーン上の手順に従って下さい。これは、データベースを更新するために DPUPDATE.exeを使用しています。

測定プログラムが正常に実行された後、選択された測定結果とトレースフィールド情報がXSTATS11.tmpという名前のファイルに保存されます。このファイル内の情報を、その後、異なるディレクトリに転送、印刷、あるいは、データベース アプリケーションに送付することが可能です。

付記: データベース アプリケーションが入手不可能な場合、PC-DMISは、XSTATS11.tmpをデータベース内にロードするための更新内容（DataPage アプリケーション用には、DPUPDATE.exe）が発見できないことを告げるメッセージを表示します。





DPUPDATE.exeが働くためにユーザが管理者権限でPC-DMISを実行する必要があります。

**DataPage 変数名** - このエリアは、DataPageでエンティティを特定するために測定結果名または要素名のどちらを使用するか示します。名前の長さは最大10文字に制限されています。測定結果名または要素名のいずれかを選ぶには、**測定結果名を使用 オプション**または**要素名を使用 オプション**を選択して下さい。

**コントロール計算を実行** - DataPage内で行われるコントロール計算を使用するかどうかを指定するオプションが含まれます。**オンオプション**を選ぶと、公差外コントロール計算が行われます。加えて、コントロール計算を行い、データベース内にパーツ/変数、及び、公差内/外/コントロール インジケータを設定するよう、DataPage統計更新プログラム (DPUPDATE) に命じられます。これらの計算に基づく、パーツ/変数の色付け(赤/黄/緑)を起動することにより、DataPageのモニター モードを用いて、このデータベースを監視することができます。追加の情報については、DataPageモニター モード アプリケーションに同梱されたヘルプ ファイルを参照して下さい。

コントロール計算の起動、作動停止を行うには、単に、**オン オプション**、または、**オフ オプション**を選択して下さい。デフォルト設定は**オフ**です。

**読み取りロック** - PC-DMISが読み取り時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は10秒です。

**書き込みロック** - PC-DMISが書き込み時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は20秒です。

**メモリーページ ボックス** - データベースを開く際に、データベーステーブルを格納するために4Kページの数値を指定します。オープン可能な最小(かつデフォルト)ページ数は4です。